

特別養護老人ホーム ケアポート板橋

症例概要 利用者：80代 要介護2

認知症 なし

令和4年12月に同法人内の地域包括よりネグレクトケースとして依頼を受け、措置入所となる。入所後は食事や入浴など、一般的な生活は確保されたものの、ご本人の中で、「家に帰りたい」という思いは常にあり、不穏になられる事もしばしば見られた。そんな中、担当職員が中心となり、ご自宅近隣の最後までご本人を受け入れ続けて下さった中華屋さんへの食事外出を企画。輝きある一日を過ごされた症例。

内 容

在宅生活時、自宅前にあるバス停で一日を過ごされていることが多く、食事、入浴も行えているか不明な状況でした。包括が介入しようとしても、ご本人は承諾せず、不衛生な外見もあり、近隣の飲食店は出入り禁止の状態でした。何とか介入しようと、認知症カフェの協力を頂き、行政も介入し令和3年12月にケアポート板橋に措置入所となりました。

入所後は、まず食事の確保や入浴のサービスにて、ご本人が安心して生活できる様に努めましたが、夜になるとご自分の洋服等の荷物をまとめ、帰る準備をしたり、「家に帰りたい」「なんで私がここにいるの」と不穏になる事が多々見られました。

施設生活の中でも、なにか楽しみができないか考え、嗜好品の提供や、様々な催し物に参加して頂きましたが、その場では笑顔が見られたものの、夜になると、出入り口のエレベーター前にて荷物を準備し、帰りたいご様子が見られ、一晩中不眠な日もありました。

そんな中、担当者が中心となり、ご自宅に帰って生活されるのは難しいが、慣れ親しんだ地域に行く事は出来るのではないかと考え、ご自宅の近くにある中華屋さんへの外食を企画しました。措置入所の際に関わった地域包括職員も「なにか手伝う事はできないか」と声をかけてくれ、外出当日と一緒に参加しております。

当日、ご自宅の近隣に向かうと、「ここ覚えているわ」「ここよく行ってたわ」と一生懸命に同行した職員に説明され、生き生きとした表情を見せて下さいました。中華屋に到着すると、辺りを見回し、よく座っていたテーブルを覚えており、指を差しながら着座。出発前には麺類を食べたいとお話されていましたが、メニューをじっくり見直し、悩んだ挙句、中華丼を選択。一口ずつ味わいながら完食。食事後、ご自分のポケットを探り、「ポーチとカードを忘れた」と仰り、清算されようとする姿も見受けられました。

店を出た後は、地域包括職員の計らいもあり、以前お世話になっていた認知症カフェにも参加。昔話や最近のご様子を話されたり、皆さんで歌を歌うなど、楽しいひと時を過ごされました。帰園後も他職員に対して、興奮気味に外出時の様子を話されたりして、ご満悦のご様子でした。

その夜も自室ではなく、出入口付近におられ、あまり熟睡することはできませんでしたが、「輝きある一日・瞬間」を過ごすことができたと共に、同法人内でのワンチームでビジョンを達成した事例であると考え、推薦させていただきます。